

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500772		
法人名	有限会社 タケタニ		
事業所名	グループホーム「まごころ」		
所在地	長崎県大村市古賀島町120-15		
自己評価作成日	令和6年12月31日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和7年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様一人ひとりの状態に応じた援助の実施。状態変化が生じた場合にも即座に援助方法を見直します。 ・入居者様の気持ちになって考え、一人ひとりに寄り添った介護を行います。 ・職員のアイデアや個性を生かし援助や関わり方をそれぞれが工夫しています。 ・介護職員の人材不足の現況、働き方改革に基づき離職防止、人材確保に努めています。 風通しの良い職場環境作り、職員とのコミュニケーションの時間を確保 実情や要望に応じた職務分担や勤務シフト作り、有給休暇の積極的消化等 定年後の継続雇用やシニア層専用の求人の実施

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは開設から21年が経過し、入居者がその人らしく暮らしを続けられるよう、生活歴や価値観を尊重し、個別性を重視した支援を実践している。入居者の高齢化や機能低下に伴い、介助方法を適宜見直しながら安全かつ自立支援の視点を持ったケアに努めている。食事や趣味活動においても自己決定を尊重し、入居者一人ひとりのペースに合わせた柔軟な対応を心がけている。職員は定期的に研修を受け、介助技術の向上に努めながら、日々の言葉かけを大切に、入居者が安心感を持って生活できるよう家庭的な環境づくりに努めている。日常生活の中で入居者の「できること」に焦点を当て、生活の継続性を大切に支援されており、今後入居者支援にますます期待が持てるホームである。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者が書いた理念を誰もがみれる玄関のところに掲示しています。理念の中にある家庭的な環境作り尊厳も持った言葉かけなどを心掛けて理念に基づき日々実践しています。	当ホームは「家庭的な楽しい生活」、「安心と尊厳のある暮らし」、「皆が家族の一員」、「地域との共生」の4つの理念を掲げている。基本理念はホーム内の目につく場所に掲示され、職員が常に意識しながら支援に努めている。理念を共有しながら家庭的で温かい環境作りに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策のため面会制限は継続していますがご家族様との外出は人込みを避けるなど協力して頂いています。外部からのボランティアなどコロナ禍後再開に至っておりませんが日光浴や外気浴、散歩したい方の要望に応じ支援しています。	当ホームは民生委員や地域の消防団との交流があり、有事の際の協力体制を構築されている。また、近隣を散歩する際は近所の方と挨拶を交わすなど顔見知りの関係を築いている。認知症の方やその家族が気軽に相談できる地域の窓口である「認知症ほっとライン事業所」としても登録されており、地域に根差したホームを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方とその家族を支えるために気軽に相談できる窓口として「認知症ほっとライン事業所」として参加し地域包括支援センターに情報提供のお手伝いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は様々な報告等を行い構成委員の皆様との意見交換や参考になる話を伺う貴重な機会です。活発な意見等が出るよう、気軽な雰囲気での会議を進行しています。皆さんから頂いた貴重なご意見をしっかり参考にサービス向上に繋げています。	現在、運営推進会議は対面により実施し、メンバーは市職員、有識者、民生委員、ホーム職員で構成されている。有識者の中には薬剤師が参加されており、薬の情報共有や意見交換が行われている。会議では入居者の生活状況やサービスの実情について話し合い、出された意見をもとにサービス向上に努めている。	現在、家族の代表は運営推進委員会に参加されていない。ホームから家族への情報発信の機会が少ないこともあり、今後、例えば運営推進会議の報告書を家族へ送付し、入居者の生活状況やホームの課題等を家族も把握し共有することでホームの運営の透明性を高め、情報共有が進むことで、家族からの信頼感が高まり、報告書を通じて、家族にもホームの運営に関心を持ってもらうなど、より良い関係構築につなげていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が2名の出席と市の介護相談員の定期的な訪問の受け入れなど市と連携を行っています。	運営推進会議に市の担当者が出席し、定期的な意見交換を実施している。また地域包括支援センターとホームの空室状況の共有を行い、入居希望者の紹介を受けるなど、相互の連携が図られている。こうした日常的なやり取りを通じて顔の見える関係性が確立され、敏速な対応や支援につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っていません。人の出入りがあるとセンサーが感知しホールの方で音が聞こえるようになっているため職員は人の気配がわかり見守りができるようになっています。転倒リスクなど安全確保や危険防止については何か集中できることを提供するなど工夫をこらしています。	日中の時間帯は、玄関の施錠を行わないことで、職員が入居者を見守りながら自由な出入りを可能にしている。居室内でもセンサーマットや赤外線センサーなどの機器は使用していない。言葉による拘束(スピーチロック)に関しては、職員自身が意識し、気づくことが重要であるとの考えのもと、定期的に研修を実施し、職員一人ひとりが適切なケアの意識を高められるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束と共に虐待については定期的に研修の機会を持って職員全員が学ぶ機会を作り虐待について理解を深めている。入居者様へ関わる際、職員自身は注意して対応を行う。そして周りの職員も対応が不適切でないかを意識的にチェックする。互いに注意しあうように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば可能な限り参加したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退去時にはご家族に対し十分な説明を行います。更に利用料の変更等の際は事前に説明資料を作成し同意を頂くようにしています。又、ご家族の不安や疑問にも十分耳を傾け納得できるような対応を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問の際に本人の日頃の様子をお伝えしたり逆に家族に話す本人の要望などを聞くことがあります。面会時にはご家族様と話す時間を極力とるようにしています。	面会前に事前に電話連絡をしてもらうことで、その際に入居者の近況を伝える機会として活用している。面会時に職員ができる限り家族と直接対話する機会を設けて入居者の様子やケアに関する意見を丁寧に聞き取るよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な関わりの中で気づきや疑問に感じたことその他、職員間の悩み事など話しやすい環境を作るように心がけて職員と接しています。業務やケアの改善、アイデアなど職員からの要望があれば実際に試して反映するようにしています。	施設長や管理者は日常的に現場に入り、職員と直接関わることで、職員意見を聴き取り、把握しやすい環境を整えている。朝礼後や日々の雑談の中でも職員の考えや提案を聞く機会を設け、自由に意見を交わせる雰囲気大切にしている。職員一人ひとりが「やってみよう」と思える職場環境作りを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や業務に対する姿勢を把握し評価を行っています。賃金の見直しや評価に基づき手当、賞与を支給し処遇改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の研修は業務ごとに指導者が付き一つ一つ順番に覚えてもらうようにしています。習得状況に応じ研修期間を設定。その他、参加したい研修等がある場合はシフトの調整など行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人出不足等の中で厳しい状況ではありますが、同業の職員が参加する会議や研修会への参加は可能な範囲で勤めています。他の事業所の職員と情報交換する機会を持ち自分のモチベーションに繋がればと思っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階は環境が変わり一番不安定な時期なので関りを多く持つように心がけています。実際に生活してみないとわからないことがたくさんあるためすべての職員が気づきなど共有し本人が安心して話ができるよう関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安に思っていることなど契約時に聞き取りを行っています。電話での相談や面会時では必ず話をする時間をもうけ関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時に本人の状況やご家族様の抱えている悩みなど聞かせて頂いています。入居後の生活の様子からご家族様の抱えている悩みを体験することで施設で対応できる介護上の支援また主治医に相談し薬の調整などできるところから対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でそれぞれができるお手伝いをして頂いています。洗濯たたみ、テーブル拭き、チリ紙折り、ごみを入れる箱折りなど一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で日常の様子の変化など本人の状況をお伝えし、ご家族様と共に本人を支えていくことができる関係性を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り支援できるよう努めています。定期的に墓参りやお寺に行くなど施設の人員体制だけでは困難なこともありご家族様に協力して頂いています。	年間を通じてで一番良かった入居者の表情を写真付きで年賀状として家族に送ることで、入居者のホームでの様子を伝え、家族の安心につなげている。入居者の生活習慣や意向を尊重し、家族の協力を得て、入居者が慣れ親しんだ墓参りや寺院への訪問を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状の行動や言動により入居者間のトラブルは多いため常に注意し観察するよう努めています。性格、相性、身体機能、生活習慣など様々なことを考慮し席替え、テーブルの位置の変更などの支援も行っています。共同でできる作業は一人ではしない方でも一緒にすることで取り組まれるためできることを伸ばす支援も取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するときは、ほぼ入院が必要になり退去に至る方が多いです。コロナ禍前は面会に行くこともありましたが今は面会制限があり行っておりません。入院先は協力医療機関が主なので逝去時は知らせがあり退去後もご家族様を訪問することはあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを伝えられる方は少ないため日々の暮らしや本人との関り、表情、会話、ご家族様との話の中で本人の思いを探すことに努めています。	入居者一人ひとりの思いや意向を大切に、日々の会話の中で受け答えができる内容を探りながらその人らしい生活を継続できるよう努めている。入居者が自分のペースで過ごせるように、テレビを居室に持ち込むこともできる。入居者が自らできることはできるだけ長く継続できるように支援することで、入居者の生活意欲を高め、生活の質を維持するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態把握票やご家族様からの話で情報を収集すると共に実際に関りを持ち本人のできないことを把握することでケアに活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の過ごし方を観察しています。できること、できないこと、好むこと、苦手なことの把握に努め援助できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新しく入居した方がなかなか落ち着かない時などご家族様と情報を共有し本人が落ち着くような物がないかなど話し合いを行っています。	職員全員が介護計画の短期目標を把握し、日々のケアに反映できるように、日々の記録に短期目標を掲載している。日誌と介護計画を連動させることで、職員は常に介護計画の目標を意識しながらケアの提供に努めている。職員全員が担当制にとらわれず、入居者全員を支援できるようにモニタリングを実施し、チーム全体で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の中にケアプランの内容を記載しています。援助して気づいたことや新たな発見など記入し申し送りで情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の内情や様々な事情など考慮し柔軟に対応できるよう努めています。不足している衣類など届くまでの間、施設でお貸ししたり身体機能の変化で必要なものがある時は実際に本人に合うのか試しご家族様と連携をとるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でエステや歌のボランティア、町内のお祭りなど行われなくなりました。施設の周りには畑や季節に応じ桜やつつじが咲きます。入居者様の希望を聞き施設の玄関から眺めたり車椅子で少し離れたところまで行き桜を楽しんだりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携が迅速に対応できるよう入居後は施設の協力医療機関が主治医となり月2回の往診ができるようにご家族様に説明を行っています。疾患によってはご家族様の希望に合わせ専門医が継続してかかりつけ医となり医療連携が迅速にできるよう関係を築いています。	ホームは24時間体制で医療連携を整えており、協力医療機関が主治医となり、月2回の訪問診療を受けている。他科受診に関しては、家族が同行し対応している。往診時や薬が変更になった際には家族へ適宜連絡を行い、入居者の健康状態については家族、職員間で情報共有を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前、午後の2回体調管理のためバイタル測定をしています。体調変化時は主治医と医療連携の契約をしている訪問看護に相談、指示を仰ぐことができるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供書を作成し速やかに情報交換ができるように努めています。入院してからの病院との情報交換やご家族の意向、退院してからの本人の生活について必要なことなど話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りを実施していない事、重度化した場合の対応を説明しています。実際に癌が進行しご家族の考える医療方針を尋ね今後の本人の生活、施設で生活が困難になった場合の行き先について話し合いました。そして主治医にもご家族の意向を伝え希望に添えるよう取り組んでいます。	入居契約時に入居者が重度化した場合や終末期を迎える際の対応について説明を行い、家族とホームの方針の共有を図っている。重度化した際の具体的な支援内容や他の医療機関、施設との連携についても適宜説明を行っている。主治医にも家族の意向を伝え、希望に添えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化の小さな気づきは早めに主治医に報告し受診や指示を仰ぐようにしています。急変、事故発生時の対応については個別の医療ファイルをすべての職員が見れる場所に保管しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署、近隣住民との協力体制は築いている。様々な災時における避難方法の検討は適宜実施。又、今年度より消防避難訓練は消防署の立会訓練に戻りました。5年は自主訓練だったので意識的な消防訓練への取組みを目指しましたが結果は伴わず。人出の問題もありますが職員自らの意識は不足しています。職員一人ひとりの意識改善を含め改めて取り組みたい。	定期的に消防訓練を実施し、その記録には訓練実施後の反省点などの評価も記録されており、継続的に防災対策の向上に努めている。消防署や地元消防団、近隣住民との協力体制を築き、有事の際には連携して対応できる体制を整えている。緊急時の持ち出しファイルや備蓄品の整備もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の習慣、性格、癖など把握し声かけの工夫や羞恥心に配慮した言葉かけになるよう心掛けています。	入居者の写真使用に関しては事前に家族に同意を得た上で取り扱いを行っている。プライバシー保護のため、居室の扉は閉めるように徹底し、入居者が安心して過ごせる環境を整えている。入居者一人ひとりに対して丁寧な声かけを行い、誇りや羞恥心、プライバシーを損ねないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情、行動の観察を行い本人が何をしたいのか様子観察、聞き取りを行っている。個別で行う作業など何をしたいか本人に尋ね自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課はありますがひとり一人の体調やその日の気分に応じて集団レクや個別支援を行っています。自室で休む方、一人で運動したい方、作業をしたい方など柔軟な支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面介助時に鏡に向かい整髪を行っています。入浴時は一緒に衣類を選んだり季節に応じた衣類の選択ができない方には衣替えや最小限度の衣類にまとめ本人が困らないように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の能力に応じて茶碗拭きやテーブル拭き、下膳などお手伝いをお願いしています。身体機能の低下など変化が見られるようになるとテーブル拭きは立って拭かず座り自分の所だけ拭いて頂くなど変化に応じた援助を行っています。	食事は炊飯や汁物はホームで調理し、その他のおかずは配食サービスを利用することで職員の負担を減らし、バランスの取れた食事を提供している。また座ったままでテーブル拭きができる入居者は食事前の準備を手伝ってもらい、役割を持つことで生活意欲や身体機能の維持・向上につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食がある場合は摂取量、嗜好、体調など本人に聞き取りを行っている。栄養面を考慮し食材は業者より配達してもらっている。嚥下状態に変化がみられるようになるとトロミの使用や食事形態の変更など状況の変化に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行っている。歯磨きの理解がない方、義歯の汚れをきれいに落とせない方などそれぞれに応じた支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄リズムやパターンを把握し排泄間隔や言葉で表現できない方など行動で察知するなどトイレに案内する支援を行っています。	入居者一人ひとりの排泄リズムやパターンを把握し、適切なタイミングで声かけを行うことのできる限リトイレで排泄ができるように支援している。夜間は入居者の睡眠を重視し、できるだけ安眠を妨げないように配慮し、おむつやパットを適切に使い分けるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに援助し適度な運動と必要に応じ服薬など支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度が高い方には職員が2人対応で行っている。時間帯は午前中になっているが午後から家族の面会や外出など予定が入った場合、急な変更や待たせることがないため時間帯は決めています。	入浴は原則として週に2回実施し、浴室の温度も温度計で管理しながら快適に入浴できるようにしている。入浴を通じて職員と入居者とのコミュニケーションの場としても活用しながら、ゆっくりリラックスできるよう配慮している。立位が不安定な入居者には安全確保のために職員が2人対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座位が長くないようホールを歩いてもらったり、さりげなくトイレに案内している。日中でも休息のため居室で臥床することも勧めています。夜は居室の温度や気候に応じ布団の調整など援助しています。又、眠れず出て来られた方へは可能な限り関わり寄り添うことで安眠に繋がればと思ひ援助をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の医療ファイルがあり薬についてすべての職員は確認できるようになっている。与薬時は薬を落とさないよう口の中に入れ確実に飲み込むことができているか観察を行っている。薬の変更や追加など職員間の統一ノートで連携を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の日々の様子やできること苦手なことを把握するようにしています。作業や手伝いが好きではなくても自分が使うものや衣類たたみならできる人などそれぞれのできることを引き出し役割として支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて散歩など行っていますが中には外出したくない方もいるため希望を聞き対応しています。現在介助が必要な入居者様が増え職員にゆとりがないのも事実です。	現在、ホームでは介助が必要な入居者が増えており、日常的に外出する機会が限られている状況である。管理者は、今後、気候が良くなった際には、家族の協力を得ながら、外出の希望をできる限り実現したいとの意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者とのトラブルを回避するため基本的には金銭の所持は行っていません。なかにはご家族様から本人が少し持っていないと落ち着かないからという理由で小銭を所持している方はいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今は手紙のやり取りができる方はいらっしゃいません。電話は自らかけたいという方はなく遠くに居る家族からたまに電話があり取り次ぐことはあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子は木のぬくもりを感じる事ができるよう家庭にあるようなものを使っている。南側の大きな窓からは緑が見え季節の木々があります。桜、つつじなど。	ホールに空気清浄機を設置し、清潔で快適な空間を整えている。手すりや椅子の消毒、換気を定期的に行い、感染対策と衛生管理を徹底している。大きな窓からは桜やつつじなどの木々が見え、季節感を味わうことができる。玄関にはお雛様など季節の飾りを施し、入居者が日々の変化を楽しめる空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所に椅子を置いていたがいつも同じ人が座り座りたくても座れない方のために本人が食事の時に使ういつもの椅子を活用して日向ぼっこなどしてもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大事にしている物やこれがあると落ち着いて安心する物などがあれば入居時や生活の過程で家族と相談しながら対応しています。	居室には入居者が大切にしているものや写真を飾ることで安心感を持って過ごせる工夫をしている。また畳のスペースを設け、ゆっくりと寛げる環境を整備している。入居者の能力や生活習慣に合わせ、ベッドではなく布団で過ごす方もいるなど、個々の希望に沿った環境を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	男性入居者様が増えたことにより男女落ち着いてトイレを使用できるよう分けました。今まで女性はどちらも使っていたため分かりやすいように大きく男トイレと張り紙をしています。建物内部には手すりがあり歩行不安定な方には手すりを使い移動できるようにしています。		